安　全　デ　ー　タ　シ　ー　ト

整理番号 TNI 00105
作成日 2005/12/1
最終更新日 2015/1/1

1. 化学物質及び会社情報

会　　社　：大陽日酸株式会社
住　　所　：〒142-8558　東京都品川区小山 1-3-26 東洋 Bldg.
担当部門　：SI 事業部　　　　　　　担　当　者　：平　　　博　司
電話番号　：03-5788-8695　　　　　FAX 番号　：03-5788-8710
緊急連絡先：SI 事業部（電話番号 03-5788-8550）
メールアドレス： Isotope.TNS@tn-sanso.co.jp
ホームページアドレス：http://stableisotope.tn-sanso.co.jp

化学物質　　ジクロロメタン

製品名　　ジクロロメタン-^{13}C、ジクロロメタン-d_1、ジクロロメタン-d_2
ジクロロメタン-^{12}C,d_2

＊ 安定同位元素で標識された化合物は、標識核種及び位置により製品名称が異なりますが、安全性データは非標識化合物と同一とみなします。従って、特に指定しない限り本シートに記載されているデータは、非標識化合物のデータを採用しています。

---

2. 危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性：	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	分類できない
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	区分外
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	分類できない

	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性：	急性毒性（経口）	区分 4
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	区分外
	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類対象外（粉じん）
	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない（ミスト）
	皮膚腐食性・刺激性	区分 2
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 2A
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	区分 2
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分 1(中枢神経系、呼吸器) 区分 2(気管支) 区分 3(麻酔作用)
	特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	区分 1(中枢神経系、肝臓)
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性：	水生環境急性有害性	区分 2
	水生環境慢性有害性	区分 2

ラベル要素

絵表示又はシンボル：

注意喚起語：　危険

危険有害性情報：　飲み込むと有害（経口）
皮膚刺激
強い眼刺激
発がんのおそれの疑い
中枢神経系、呼吸器の障害
眠気及びめまいのおそれ
長期又は反復ばく露による中枢神経系、肝臓の障害
水生生物に毒性
長期的影響により水生生物に毒性

注意書き：　【安全対策】
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
使用前に取扱説明書を入手すること。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。
保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
環境への放出を避けること。

【応急措置】
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合：水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。
皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
ばく露又はその懸念がある場合：医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合：気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
口をすすぐこと。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】
容器を密閉して換気の良いところで施錠して保管すること。

【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

---

3. 組成・成分情報

単一製品/混合物の区分‥　単一の化合物
化学名 ‥‥‥‥‥‥‥‥　ジクロロメタン
別名 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥　塩化メチレン、メチレンクロライド、二塩化メチレン
メチレンジクロライド
含有量 ‥‥‥‥‥‥‥‥　９９．０％以上
化学式又は構造式 ‥‥‥　CH_2Cl_2
官報公示整理番号 ‥‥‥　化審法：（２）－３６
ＣＡＳ番号 ‥‥‥‥‥‥　７５－０９－２
国連分類番号 ‥‥‥‥‥　６．１（毒物）
国連番号 ‥‥‥‥‥‥‥　１５９３（ジクロロメタン）

---

4. 応急措置

目に入った場合 ‥‥‥‥　清浄な流水で、最低１５分間以上洗眼し、直ちに眼科医の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合 ‥‥　汚染された衣服、靴等は直ちに取り替える。皮膚に付着した部分は、直ちに多量の水及び石鹸で洗い流す。
吸入した場合 ‥‥‥‥‥　患者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、保温して安静にし、速やかに医師の手当てを受ける。呼吸が停止しているときは人口呼吸を行う。
飲み込んだ場合 ‥‥‥‥　多量の水又は食塩水を飲ませて吐かせ、直ちに医師の手当てを受ける。患者に意識が無い場合には、口から何も与えてはならず、吐かせようとしてもいけない。

---

5. 火災時の措置

消火方法 ・・・・・・・・・・・・・・ 炭酸ガス及び粉末が有効である。

消火方法 ・・・・・・・・・・・・・・ 火災の危険性は少ない。消火剤を使用して消火する。炎を消さず周囲の物件を水で冷却し、延焼を防ぐ方が良い場合もある。

消火活動上の注意事項 ・・ 消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

---

6. 漏出時の措置

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 漏洩又は流出した場合には、下水や排水溝へ流出又は地下へ浸透することのないように、活性炭による吸着、乾燥した砂等による吸収を行う。大量に流出した場合には、ポンプ等により回収し、密栓できる金属容器に移し換え、回収できなかったものについては、活性炭等による吸着、ウエス等による拭き取りを行う。吸着又は吸収したものは、適切な方法により処分する。

---

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い ・・・・・・・・・・・・・・・・ 吸い込む、又は眼、皮膚及び衣類に触れる等がないように、適切な保護具を着用し、できるだけ風上から作業する。蒸気の発散をできるだけ抑え、作業環境を許容濃度以下にするように努める。容器を密封又は局所排気装置を設置する。容器を転倒させる、落下させる、衝撃を加える、又は引きずる等の粗暴な取扱いをしない。使用済みの空容器は、一定の場所を定めて集積する。

保管 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 密閉容器に入れ、涼しくて換気の良い場所（冷暗所等）に直射日光や雨水を避けて貯蔵する。

---

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度 ・・・・・・・・・・・・・・ １００ｐｐｍ

許容濃度 ・・・・・・・・・・・・・・ 日本産業衛生学会（１９９０年度版）:
１００ｐｐｍ（３５０ｍｇ／ｍ３）
ＡＣＧＩＨ：ＴＷＡ　１００ｐｐｍ（３５０ｍｇ／ｍ３）
ＳＴＥＬ：　５００ｐｐｍ（１７４０ｍｇ／ｍ３）

保護具 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 【呼吸用保護具】有機ガス用防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器
【保護眼鏡】保護眼鏡、防災面
【保護手袋】保護手袋
【保護衣】前掛け、長靴

設備対策 ･･････････････ 室内作業場での使用の場合は、発生源の密閉化又は局所排気装置の設置を行う。取扱い場所の近くに、安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

---

9. 物理及び化学的性質

外観等 ････････････････ 無色透明液体。

沸点 ･･････････････････ ３９．８℃

融点 ･･････････････････ －９５．１４℃

比重 ･･････････････････ １．３２６（２０℃）

溶解度 ････････････････ 水：２．０ ％（２０℃）

蒸気圧 ････････････････ ３４８．９mmＨｇ（２０℃）

蒸気密度 ･･････････････ ２．９３（空気＝１）

引火点 ････････････････ データなし。

発火点 ････････････････ ６６２℃

爆発限界 ･･････････････ 下限：１５．５ ｖｏｌ％ 上限：６６ ｖｏｌ％（酸素中）

揮発性 ････････････････ なし。

可燃性 ････････････････ 空気中ではほとんど引火しないが、酸素濃度の増加により、可燃性が増加する。

---

10. 安定性及び反応性

･････････････････････ 水分が無ければ、１２０℃まで安定。

---

11. 有害性情報

急性毒性 ･･････････････ 経口 ラット ＬＤ５０ ２１３６mg／ｋｇ

吸入 ラット ＬＣ５０ ８８０００mg／ｍ３・３０分

ＬＣ５０ １４４００ｐｐｍ・７時間

刺激性 ････････････････ 皮膚、粘膜に対して軽度の刺激性がある。

皮膚腐食性 ････････････ 皮膚の乾燥、発赤、灼熱感、刺激性。

感作性 ････････････････ 反復又は長期間の皮膚との接触は、皮膚炎を起こすことがある。

慢性毒性 ･･････････････ 中枢神経系、肝臓に影響を与え、疲労、悪心、頭痛、肝臓腫大を生じることがある。

がん原性 ･･････････････ 米国の国家毒性プログラム（ＮＴＰ）が実施した１９８５年の発癌性バイオアッセイの結果、マウスにおいて肺及び肝腫瘍の増加、ラットにおいて良性の乳腺腫の増加が認められ、ラット又はハムスターには認められなかった。人に対する発がん性については、まだ結論が出ていない。

催奇形性 ‥‥‥‥‥‥‥ 妊娠ラット及びマウスを反復蒸気曝露した実験では、胎仔毒性及び催奇形性はいずれも見出されなかった。

---

12. 環境影響情報

分解性 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 良分解性。

魚毒性 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 水性動物に対する毒性は低いと考えられる。

その他 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 大気中ではジクロロメタンの寿命が短いため、成層圏オゾン層の破壊及び地球温暖化にほとんど寄与しないと考えられている。

---

13. 廃棄上の注意

‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 処分にあたっては、焼却を行うなど環境汚染とならない方法で処分し、そのまま埋め立て投棄してはならない。焼却する場合は塩化水素が発生するので、十分な可燃性溶剤、重油等の燃料と共にアフターバーナー、スクラバー等を具備した燃焼炉でできるだけ高温で焼却し、排ガスは中和処理を行う。外部業者に処理を委託する場合は、都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託し、関係法令を厳守して適正に処理する。

---

14. 輸送上の注意

‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 車両等によって運搬する場合は、荷送人は運送人に運送注意書を交付する。運搬に際しては、容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。その他、法令の定めるところに従う。

---

15. 適用法令

化審法 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 優先評価化学物質

ＰＲＴＲ法 ‥‥‥‥‥‥ 第１種指定化学物質

労働安全衛生法 ‥‥‥‥ 名称等を通知すべき危険物及び有害物
健康障害防止指針公表物質
名称等を表示すべき危険物及び有害物
作業環境評価基準
第２種有機溶剤等
変異原性が認められた既存化学物質

大気汚染防止法 ‥‥‥‥ 揮発性有機化合物 法第２条第４項
有害大気汚染物質、優先取組物質
自主管理指針対象物質

水質汚濁防止法 ········ 有害物質
下水道法 ·············· 水質基準物質
水道法 ················ 有害物質、水質基準
海洋汚染防止法 ········ 有害液体物質（Ｙ類物質）
廃掃法 ················ 特別管理産業廃棄物
バーゼル法 ············ 廃棄物の有害成分・法第２条第１項第１号イに規定するもの
航空法 ················ 毒物類・毒物
船舶安全法 ············ 毒物類・毒物
外為法 ················ 輸出貿易管理令別表第２
輸出貿易管理令別表第１の１６の項
輸入貿易管理令第４条第１項第２号輸入承認品目「２の２号承認」
労働基準法 ············ 疾病化学物質
がん原性化学物質
土壌汚染対策法 ········ 特定有害物質

---

16. その他の情報

【参考文献】

日本化学会編　化学防災指針３　　丸善（1979）
浅原ほか編　溶剤ハンドブック　　講談社（1976）
工業化学物質のヒトにおける生物学的モニタリング EC 委員会発行
（緒方正名、武田和久訳）同文書院（1987）
Commission of the European Communities、Organo-chlorine Solvents：Health Risk to Workers Royal Society of Chemistry（1986）
NIOSH, Current Intelligence Bulletin 46, Methylene Chloride (April 18, 1986)
NTP, Toxicology and Carcinogenesis Studies of Dichloromethane(Methylene Chloride) (CAS　No.75-09-2) in F334/N Rats and B6C3F1 Mice(Inhalation Studies) NTP TR306,NIH Publication (Jan.　1986)
ECSA, Methylene Chloride, ItsProperties, Uses, Occurrencein the Enviroment,Toxicology And Safe Handling(Aug.2,1989)
14504 の化学商品　　化学工業日報社
化学品法規制検索システム　　日本ケミカルデータベース
GHS 仕様モデル SDS　　中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター

＊ この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。ま

た、含有量、物理及び化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。なお、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取扱いをする場合には、その用途・用法に応じた安全対策を実施して下さい。